

- 問1 1185年、源頼朝は対立した弟の源義経を捕らえることを名目に、朝廷から守護と地頭を設置する権限を認めさせました。これら守護と地頭が配置された場所と役割の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 守護は朝廷のあった京都に置かれて貴族を監視し、地頭は東国の有力な御家人の領地にのみ限定して置かれた。 | 2. 守護は荘園ごとに置かれて裁判の役割を担い、地頭は国ごとに置かれて行政全般の管理を行った。 | 3. 守護と地頭はともに九州沿岸に置かれ、外国からの侵略に備えるための軍事拠点としての役割を担った。 | 4. 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。 |
|---|---|--|---|
- 問2 鎌倉時代末期、生活が困窮した武士などが幕府や荘園領主の支配に従わなくなり、武装して年貢を奪うなどの抵抗活動を行うようになりました。このような、既存の支配体制を乱した集団を当時の領主側は何と呼びましたか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 御家人 | 2. 蝦夷 | 3. 悪党 | 4. 公領 |
|--------|-------|-------|-------|
- 問3 鎌倉時代の13世紀後半、元軍が日本に襲来した「元寇」に関連する記述として、当時の執権であった北条時宗が執った行動やその背景について説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 幕府の権威を固めるため、日本で最初となる武家独自の法律「御成敗式目」を制定し、裁判の公平化によって御家人の支持を得ようとした。 | 2. 室町幕府の権力を強化するため、明との間で勘合貿易を開始し、対外的な緊張を緩和させる政策を採用した。 | 3. モンゴル帝国からの服属要求を拒絶し、九州の博多湾沿岸に防塁を築くなどして防衛体制を整えた。 | 4. 元の皇帝フビライ・ハンの要求を受け入れ、日宋貿易をさらに拡大させることで武力衝突の回避を図った。 |
|--|--|--|---|
- 問4 現代の「ジェンダー平等」の視点から日本の歴史を振り返ると、鎌倉時代初期には女性が土地を管理する「女性の地頭」が存在するなど、一定の経済的権利を持っていたことが分かります。このような状況を可能にしていた当時の仕組みや背景として、正しい説明はどれですか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 律令制度の「班田収授の法」に基づき、男女の区別なく等しく口分田が与えられていたため。 | 2. 明治時代の学制の発布により、女子にも男子と同じように通学して知識を身につける義務が生じたため。 | 3. 平安時代に国風文化が広まり、女性が『源氏物語』などの文学作品を通じて政治的発言権を強めたため。 | 4. 武士の一族において、領地を子や女子にも分け与える「分割相続」の慣習があったため。 |
|---|--|--|---|
- 問5 鎌倉時代の政治体制において、将軍と御家人の間で結ばれた「御恩と奉公」の関係と、守護・地頭の制度について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 天皇から授けられた官職を世襲することを条件に、御家人が幕府へ多額の献金を行う経済的な契約関係であった。 | 2. 将軍が御家人の所領支配を保証するなどの「御恩」に対し、御家人は守護・地頭の職務や軍役を「奉公」として果たした。 | 3. 農村で生まれた「惣」と呼ばれる自治組織を解体し、将軍が全ての土地を直接管理するための仕組みとして整備された。 | 4. 武士が農民から武器を没収する「刀狩」を円滑に進めるため、各国の武士を役職に就けて組織化した制度である。 |
|--|--|---|--|
- 問6 鎌倉時代の政治体制において、「執権」という役職が果たした役割の説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|--|
| 1. 地方の軍事や警察の役割を担い、幕府から各国に派遣された役職である。 | 2. 江戸幕府において将軍の直属として、臨時に最高職に就き国政を左右した。 | 3. 室町幕府において将軍を補佐し、足利一族の有力者が就任して政治を支えた。 | 4. 将軍に代わって幕府の政治の実権を握り、北条氏が世襲して政務を統括した。 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|--|
- 問7 14世紀前半、鎌倉幕府の政治に対する不満が高まる中で倒幕の計画を立てて兵を挙げた天皇と、それに応じてもとは幕府側の有力な御家人でありながら京都の六波羅探題を攻め落とした人物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 1. 後醍醐天皇と足利義満 | 2. 後醍醐天皇と足利尊氏 | 3. 後鳥羽上皇と足利尊氏 | 4. 後鳥羽上皇と源頼朝 |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
- 問8 1185年に平氏を滅ぼしたのち、鎌倉を拠点として日本初となる本格的な武家政治の仕組みを整えた人物は誰ですか。1192年に朝廷から征夷大将軍に任命された人物を答えなさい。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 平清盛 | 2. 徳川家康 | 3. 足利尊氏 | 4. 源頼朝 |
|--------|---------|---------|--------|
- 問9 1221年に後鳥羽上皇が兵を挙げた承久の乱の結果、鎌倉幕府が京都に新しく設置した役職は何ですか。 (2016年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-------|-------|--------|
| 1. 六波羅探題 | 2. 政所 | 3. 侍所 | 4. 問注所 |
|----------|-------|-------|--------|
- 問10 一二二一年に起きた承久の乱について、この出来事が起こされた目的と、中心となった人物の組み合わせとして最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|--|--|
| 1. 後鳥羽上皇が、北条氏から朝廷の実権を取り戻すために兵を挙げた。 | 2. 後醍醐天皇が、足利尊氏と協力して鎌倉幕府を倒すために兵を挙げた。 | 3. 平清盛が、武士として初めて太政大臣になり政治の実権を握るために兵を挙げた。 | 4. 北条時宗が、元軍の襲来に備えて全国の武士を統制するために命令を出した。 |
|------------------------------------|-------------------------------------|--|--|
- 問11 鎌倉時代の武士の慣習では、親が持つ領地を後継ぎの嫡子だけでなく、複数の子供たちに分け与える相続が行われていました。このような相続方法を何と呼び、どのような結果を招きましたか。最も適切な組み合わせを選びなさい。 (2026年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 分割相続が行われ、一族の人数が増えることで幕府に対する軍事的な影響力が高まった。 | 2. 分割相続が行われ、代を重ねるごとに一族が所有する領地が細分化された。 | 3. 単独相続が行われ、長男以外の子供たちが自立して新しい領地を開拓した。 | 4. 単独相続が行われ、領地が分散するのを防いだため武士の生活は安定した。 |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
- 問12 鎌倉時代において、将軍と「御恩と奉公」と呼ばれる主従関係を結んだ武士を何といいますか。 (2021年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 地頭 | 2. 足輕 | 3. 守護 | 4. 御家人 |
|-------|-------|-------|--------|
- 問13 鎌倉時代に宋から日本へ伝えられた「禅宗」は、それまでの仏教と異なり、座禅による修行を通じて自分自身の力で悟りを開こうとするものでした。この禅宗のうち、福井県に永平寺を建てて「曹洞宗」を広めた人物として正しいものは誰ですか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 栄西 | 2. 道元 | 3. 一遍 | 4. 親鸞 |
|-------|-------|-------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。	源頼朝は、平氏打倒の功労者でありながら対立することとなった弟の源義経を搜索・逮捕することを口実として、朝廷に守護・地頭の設置を認めさせました。守護は諸国（国単位）に一人ずつ置かれ、国内の武士の統制や軍事・警察の権利を行使しました。地頭は全国の荘園や公領（国衙領）ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収、警察の補助を担いました。これにより幕府の支配力が全国へ及び基礎が築かれました。
問2	答え 3 悪党	鎌倉時代後半、分割相続による領地の細分化や、元寇（モンゴル襲来）後の恩賞不足によって、多くの武士の生活が苦しくなりました。その中で、幕府や荘園領主の命令に従わず、実力で年貢を奪ったり武装して反抗したりする勢力が現れました。領主側は彼らを既存の秩序を破る「悪」の集団と見なしてこのように呼びました。
問3	答え 3 モンゴル帝国からの服属要求を拒絶し、九州の博多湾沿岸に防塁を築くなどして防衛体制を整えた。	北条時宗は、元からの度重なる使者を追い返し、武力での対抗を選択しました。一度目の襲来（文永の役）の経験を踏まえ、二度目の襲来（弘安の役）に備えて博多湾の海岸線に大規模な石垣（防塁）を構築させたほか、異国警固番役を設けて御家人たちに九州の警備を命じました。他の選択肢は、北条泰時（御成敗式目）や足利義満（勘合貿易）に関連する内容です。
問4	答え 4 武士の一族において、領地を子や女子にも分け与える「分割相続」の慣習があったため。	鎌倉幕府を開いた源頼朝は、御家人の所領支配権を保証する代わりに忠誠を求めました。当時の武士社会では、一族の財産を男子だけでなく女子にも分配する「分割相続」が行われていました。これにより、女性が領主としての権利を持ち、地頭という役職に就くことが制度的に可能となっていました。選択肢にある「班田収授の法」は奈良時代の仕組みであり、「国風文化」や「学制」は時代の文脈が異なります。
問5	答え 2 将軍が御家人の所領支配を保証するなどの「御恩」に対し、御家人は守護・地頭の職務や軍役を「奉公」として果たした。	鎌倉時代の主従関係は、土地を媒介とした双方向の契約関係でした。将軍は御家人の領地支配を認めたり、新たな領地を与えたりする「御恩」を施し、これに対して御家人は「奉公」として、軍役を担うほか、守護や地頭といった役職に就いて幕府の統治を支えました。この時期、農村では「惣」と呼ばれる自治組織が形成されるなど、社会構造が変化し、武士の支配力が全国的な広がりを見せたことが中世の大きな特色です。
問6	答え 4 将軍に代わって幕府の政治の実権を握り、北条氏が世襲して政務を統括した。	鎌倉幕府では源氏の将軍が3代で途絶えた後、北条政子の実家である北条氏が政治の中心となりました。北条氏は自ら将軍になるのではなく、将軍を名目上の存在とし、自らは執権として幕政を動かす「執権政治」を行いました。なお、選択肢にある「管領」は室町幕府、「大老」は江戸幕府、「守護」は地方行政の役職であり、執権とは役割や時代が異なります。
問7	答え 2 後醍醐天皇と足利尊氏	鎌倉時代末期、北条氏による専制政治への不満が広がる中、後醍醐天皇が倒幕の挙兵をしました。当初は幕府軍として派遣された足利尊氏でしたが、途中で天皇側に寝返って六波羅探題を攻略しました。同時期に新田義貞が鎌倉を攻め落としたことで、1333年に鎌倉幕府は滅亡しました。後鳥羽上皇は承久の乱（1221年）で幕府を倒そうとした人物であり、足利義満は室町幕府の第3代将軍です。
問8	答え 4 源頼朝	源頼朝は、壇ノ浦の戦いで平氏を破った後、1192年に征夷大将軍に任命されました。彼は鎌倉を本拠地とし、武士が主役となる政治体制（鎌倉幕府）を確立しました。選択肢にある平清盛は平安時代末期に武士として初めて太政大臣になった人物であり、足利尊氏は室町幕府、徳川家康は江戸幕府を開いた人物です。
問9	答え 1 六波羅探題	承久の乱で朝廷側の軍に勝利した鎌倉幕府は、敗れた後鳥羽上皇らを流罪に処しました。さらに、それまで京都の警備を担っていた京都守護に代わり、朝廷の動きを常に監視し、西国の武士を統制するための機関として六波羅探題を設置しました。
問10	答え 1 後鳥羽上皇が、北条氏から朝廷の実権を取り戻すために兵を挙げた。	鎌倉時代初期、幕府の実権を握る北条氏に対して、朝廷の政治的権威を復活させようと計画したのが後鳥羽上皇です。一二二一年に上皇は北条義時の追討を命じましたが、北条政子の演説によって幕府軍が団結し、短期間で朝廷軍は敗北しました。よく似た出来事として、後に鎌倉幕府を滅ぼす後醍醐天皇の動きがありますが、年代や人物を混同しないように注意が必要です。
問11	答え 2 分割相続が行われ、代を重ねるごとに一族が所有する領地が細分化された。	鎌倉時代初期の武士の間では、領地を複数の子に分け与える「分割相続」が一般的でした。しかし、この方法を繰り返すと、一人の武士が受け継ぐ領地は代を追うごとに小さく、細分化されてしまいます。その結果、武士の経済基盤が弱まり、生活が苦しくなる原因となりました。
問12	答え 4 御家人	鎌倉幕府の基盤は、将軍と個々の武士が結ぶ強固な主従関係にありました。将軍に対して忠誠を誓い、この主従関係を結んだ武士のことを御家人と呼びます。これに対し、地頭や守護は幕府から与えられた「役職」の名称であり、足輕は室町時代以降に活躍した歩兵を指します。
問13	答え 2 道元	鎌倉時代には、宋（中国）に渡って学んだ僧たちによって新しい仏教が伝えられました。道元は曹洞宗の開祖であり、ひたすら座禅に打ち込む「只管打坐（しかんたざ）」を重んじ、永平寺を拠点として活動しました。一方、同じ禅宗でも、幕府の保護を受けて武士の間に広まった臨済宗の開祖は栄西です。親鸞は浄土真宗、一遍は時宗の開祖であり、これらは禅宗とは異なる浄土教系の宗派です。